

## 薬に関する説明文書（患者様用）

薬には、効果だけでなく好ましくない作用（副作用）があります。この薬を使用する場合の注意等について十分にご理解いただき、気になることがあった場合は担当医や薬剤師等の医療関係者にご相談ください。

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 製品名 | イオメロン（イオメロン注、イオメロン注シリンジ） |
| 主成分 | イオメプロール（Iomeprol）        |
| 剤形  | 注射剤                      |

### この薬の作用と効果：

X線を吸収することにより、脳や体、血管や尿路の病気の部位を撮影します。  
通常、CT（コンピューター断層撮影）検査や血管造影検査、尿路造影検査に使用します。

### この薬の使い方（用法・用量）：

通常、検査の際、1回から数回、静脈内に注射、又は、カテーテルを用いて動脈内に注入します。

### この薬で検査をする前にご確認いただくこと：

次のような方は、この薬を使う場合に注意が必要です。必ず担当医や薬剤師等の医療関係者にお知らせください。

- 以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある方
- 一般状態が極度に悪い方
- 甲状腺疾患、気管支喘息、心障害、マクログロブリン血症、多発性骨髄腫、テタニー、褐色細胞腫又はパラガングリオーマ（疑いがある場合も含む）の方
- 本人又は両親や兄弟が喘息、発疹やじんま疹がでやすいアレルギー体質である方
- 脱水症状、高血圧、動脈硬化、糖尿病、急性膵炎、重症筋無力症、中枢神経系障害、腎機能障害、肝機能障害のある方
- 妊婦（妊娠の可能性のある方も含む）の方又は授乳中の方
- 他の薬を使用されている方（薬によっては、お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、使用している薬がある場合は、一般用医薬品やサプリメントも含め、お知らせください。）

### この薬で検査した後にご確認いただくこと：

- 主な副作用として発疹、じんま疹、発赤、かゆみ、頭痛、吐き気、嘔吐、血圧低下、くしゃみ、咳嗽、発熱、倦怠感、熱感などが報告されています。このような症状に気がついた場合は、すぐに担当医や薬剤師等にご相談ください。  
まれに下記のような症状（副作用の初期症状）があらわれる可能性があります。これはすべての症状を記載したものではありません。記載されている症状以外でも少しでも気になることがあった場合は、必ず担当医や薬剤師等にお知らせください。

| 副作用の初期症状                                | 疑われる副作用    |
|---|------------|
| 気を失う、息苦しい、顔が青白くなる                       | ショック       |
| いきぐるしい、喉がはれる、じんま疹                       | アナフィラキシー   |
| 胸がどきどきする、めまいがする、胸がしめつけられるように痛い          | 心室細動、冠動脈攣縮 |
| 体がだるい、吐き気がする、食欲がない、白目や皮膚が黄色くなる          | 肝機能障害、黄疸   |
| 手足がしびれる、手足をうまく動かせない、ろれつが回らない            | 脳血管障害      |
| 尿の量が少なくなる、むくみ                           | 腎不全        |
| 発熱、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る、目の充血、皮膚・粘膜のただれ | 皮膚障害       |

- この薬で検査をした1時間後から数日後に吐き気、胸の痛み、発熱、発疹、かゆみなど副作用と思われる症状があらわれる場合があります。このような症状がみられた場合には、すぐに担当医や薬剤師等に相談してください。
- 薬を早く体の外に出すために、検査終了後は水分を多くとるようにしてください。

より詳細な情報については、担当医や薬剤師等におたずねください。

なお、医療関係者向けの情報は、医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。